



心が温かくなる言葉で

故郷でのつながりを大切に!!

立春の候、いかがお過ごしでしょうか。風は冷たいですが、木々の芽は膨らみ、間違いなく春はそこまで来ています。



先日、修学旅行先の京都で期せずしてタクシーに乗車した時、何気なく会話をしていたら、運転手さんが突然「昔、人吉に行ったことがあります」と言われてびっくりしました。なぜ熊本人ってわかったのだろう?と。間違いなく私の方言で分かったのだと思います。(私は標準語で話しているつもりだったのに…)その後、短い時間でしたが、熊本の話でとても打ち解けた会話ができた温かいひとときでした。



ただの言葉ですが、されど言葉。言葉には人の心を温かくする、ものすごい力があります。とくに同じ故郷で話す方言ならなおさらです。

美里で過ごす人間同士、標準語よりも心の通い合う方言を駆使して温かいつながりを持つことができます。子供たちには、その温かい言葉によって互いに高め合う関係をつくる学びを得てほしいと思い、全職員で働きかけています。卒業してからも、例え美里を巣立っても、故郷での人とのつながりを土台に力強く成長してほしいと願っていますし、保護者や地域の皆さんにもその土壌を支えていただきたいと願っています。それらの願いのもと、これからも中央中学校では、人と人をつなぐ取組を進めます。



方言のスペシャリスト来校!!

20日(金)PM2:30 開演



授業参観のあと井上博文先生教育講演会開演です。ぜひ体育館にお越しください。美里での子育てがさらに充実しますように!!

入試が変わります Part2

とくに来年と再来年は

来年度からの公立高校定員削減についてですが、現2年生が受験するとき済々覺、第一、熊本西、東稜、大津の5校で1学級ずつ合計200人



の削減、現1年生が受験するとき熊本、第二、熊本北、玉名、人吉の5校で1学級ずつ合計200人が削減されます。

これによって生じる変化として、上記10校の難易度が上がることが予想されます。これら10校は普通科の高校ですが、ここに入りきらない400人の受験者が、まずは熊本市内の私立高校と商業・工業・農業高校に流れ、そして、熊本市外の地方の高校にも影響が出ることが考えられます。

熊本市内の私立高校の難易度が上がり、地方の公立高校より難しくなって、専願や特待で受験しないと一般受験はかなり狭き門になるかもしれません。



また、宇土、松橋、小川、甲佐、御船など、地方のこれまで競争率がそこまで高くなかった高校の難易度が上がったたり、定員割れをしていた高校が定員割れせず、その結果、二次募集をなくなる可能性もあります。地方の情報、電子機械や芸術などの特徴のある科やコースはとくに人気が高まることも考えられます。

これまでの受験スタイルの例で、公立高校一本に絞ってチャレンジして、もしダメだったら二次募集で、という選択肢はかなり厳しくなるかもしれません。

21日朝スタート!! 新人駅伝

1・2年生が襷をつなぎます

町堂球技場を起点にして宇城中学校新人駅伝大会が開催されます。女子は5区間、男子は6区間で争われます。寒い中朝練を頑張っています。よろしければ沿道からの熱い声援をお願いします。

